ONKYO®

INTEC
COMPONENT WORLD

ステレオカセットテープデッキ

K-505FX

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

■ さまざまな組み合わせが可能な単品設計
■ ドルビー*B/C NR搭載
■ ドルビー*HX PRO搭載
■ 電子カウンター装備
■ マニュアル録音レベル設定可能＆レベルメーター付き
■ 頭出し機能搭載
■ オートテープセレクター
■ オンキヨー製品との組み合わせでCDワンタッチダビング（FADE（フェード）、ALBUM（アルバム））

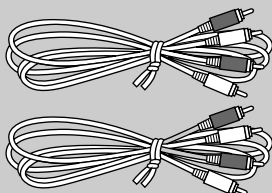
＊ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
HX PROはBang & Olufsen（バング＆オルフセン）の考案です。
“Dolby”、“ドルビー”、“HX PRO”およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

ドルビーHX PRO
ドルビーHX PROは、音楽信号の高域成分に応じて録音バイアス電流を常に最適値にコントロールするシステムです。このシステムによって高域再生可能範囲が広がり、高域成分の多いデジタルソースでもすばらしい録音ができます。この効果はドルビーNRの設定に関係なく得られます。

付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

●オーディオ用ピンコード(60cm) .... (2)

●RIケーブル(60cm) .... (1)

RI端子付きオンキヨー製品とのシステム接続をするケーブルです。（RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。）

●取扱説明書（本書）.........（1）
●保証書..............................（1）
●オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内........（1）

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

はじめに

接続をする

テープを聞く

録音する

その他

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について
この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
  煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

- 本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気を付けてご使用ください。

- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。

K-505FX(04-06)(SN29344025) 4 05.3.4, 9:45 AM
ブラック

オーディオ機器の正しい使いかた

■ 水のかかるところに置かない

水場での
使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ
禁止

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

●本機の通風孔、カセットトレイなどから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触
禁止

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■ 設置上の注意

●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

●お子さまがカセットトレイに手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

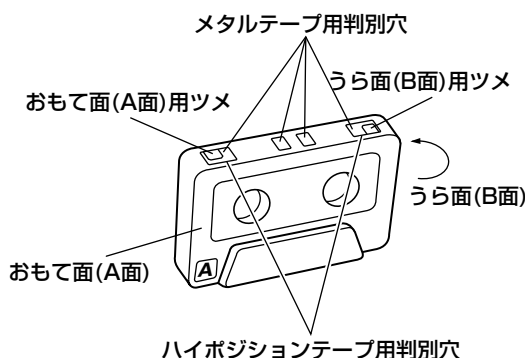
●お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

カセットの取り扱いについて

テープについて

本機はテープを入れるだけで、自動的にテープの種類（メタルテープ、ハイポジションテープまたはノーマルテープ）を判別し、それに応じて録音、再生、消去の特性を調整します。(オートテープセレクター機能)

おすすめできないテープ
C-120以上のテープは薄く、機器内のテープ送り部に巻き込まれたり、切れたりしてトラブルを起こしやすいので、使用しないでください。また、エンドレステープも故障の原因となりますので使用しないでください。

誤消去防止用ツメについて

カセットには、大切に保存しておきたい貴重な録音を誤って消してしまわないように、誤消去防止用のツメが付いています。

誤消去を防ぐには
ドライバーなどでツメを折る。

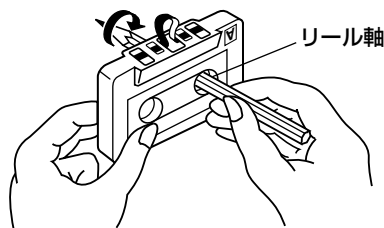
再び録音するには
折ったツメの部分にセロハンテープを貼る。
テープの種類を判別する穴をふさぐとオートテープセレクター機能が働かないので注意してください。

ご注意

テープの種類判別用穴が開いていなかったり、ふさがれていると、正しい録音や再生ができないことがあります。

テープがたるんだときは

テープがカセットから飛び出したり、たるんだままでセットすると、テープを傷める原因となります。このようなときは、図のように鉛筆をリール軸に差し込み、テープのたるみを直してください。

テープのたるみの直しかた

カセットテープの保管について

磁気の影響を受けるところ(スピーカー、アンプ、テレビの近くなど)や、直射日光の当たるところには置かないでください。また、テープに直接触れたり、ホコリやゴミが付着しないように、使用後はカセットケースに入れて保管してください。

デッキのお手入れ

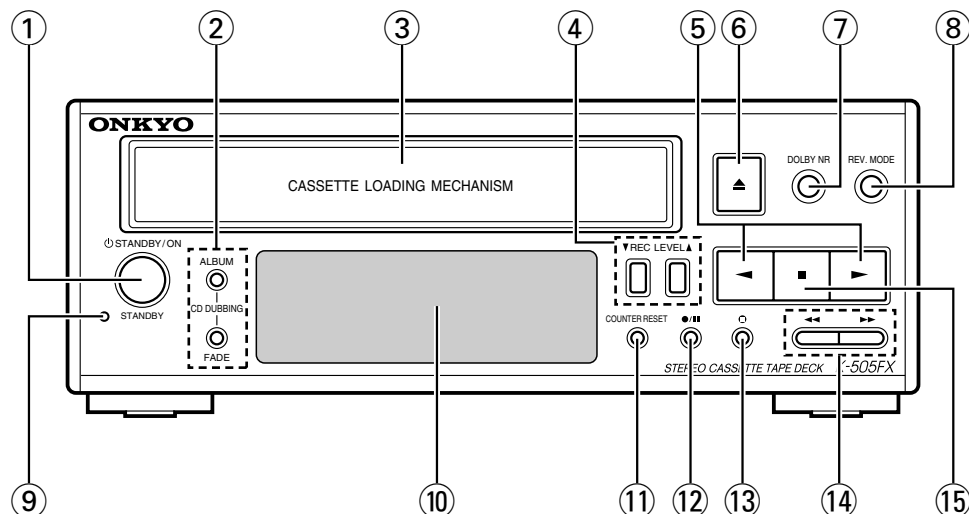
カセットテープデッキのヘッド、キャプスタン、ピンチローラーはテープの走行によって汚れやすい部分です。クリアな音を楽しむために録音、再生の前に市販のヘッドクリーニングカセットを使って清掃することをお勧めします。通常は約10時間ごとに清掃すると効果的です。
詳しくはヘッドクリーニングカセットの取扱説明書を参照してください。
清掃は市販の「湿式タイプ」のヘッドクリーニングカセットをご使用ください。
- クリーニングのときは、必ずアンプの音量を絞っておいてください。
- 清掃後は、2～3分間テープを入れないでください。

消磁

長時間使用するとデッキ内部に磁気が残留し、大切な録音済みテープに雑音が入ったり、高音域が出なくなります。約50時間ごとに、市販のカセットタイプのヘッドイレーサーで消磁することをお勧めします。消磁方法はヘッドイレーサーの取扱説明書を参照してください。
- 消磁のときは、必ずアンプの音量を絞っておいてください。

本体の名前と働き

前面パネル

〔　〕内のページに主な説明があります。

① **STANDBY/ONボタン〔13〕**
電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

② **CD DUBBINGボタン**
INTEC205シリーズやFRシリーズとのCDダビングを開始します。2種類のダビング方法があります。

ALBUMボタン〔16、17〕
アルバムCDダビングをします。A面の最後で途切れる曲を削除してB面に録音し直します。また、B面の最後で途切れる曲も削除します。

FADEボタン〔16、17〕
フェードアウトCDダビングをします。A面の最後で途切れる曲の音量を徐々に下げ、B面に再度録音し直します。B面の最後で途切れる曲も音量を徐々に下げて録音します。

③ **カセットトレイ〔13、16、18、20〕**
カセットテープを入れます。

④ **REC LEVEL▲/▼ボタン〔16、19、20〕**
録音レベルを調整します。

⑤ **◀/▶ボタン〔13〕**
再生や録音を始めます。スタンバイ状態で押すと、INTEC205シリーズのアンプやFRシリーズの電源も入れることができます。

⑥ **▲ボタン〔13〕**
カセットトレイを開閉します。

⑦ **DOLBY/NRボタン〔14〕**
ドルビーNR（雑音の削減）のタイプを選びます。

⑧ **REV. MODEボタン〔15〕**
A面とB面の再生方法を選びます。

⑨ **STANDBYインジケーター〔13〕**
本機がスタンバイ状態のときに点灯します。

⑩ **表示部**
次ページをご覧ください。

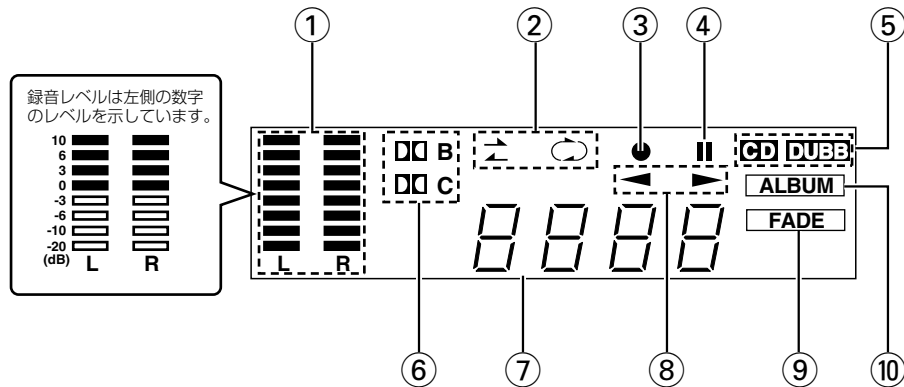
⑪ **COUNTER RESETボタン〔18、20〕**
カウンターをリセットします。

⑫ **●/‖ボタン〔19、20〕**
録音待機状態にします。

⑬ **◘ ボタン〔19、21〕**
録音中、曲間に5秒間の無音部を入れます。

⑭ **◀◀/▶▶ボタン〔14〕**
停止中は巻き戻し、早送りをします。再生中は曲の頭出しをします。

⑮ **■ボタン〔13〕**
再生や録音を停止します。

表示部

① **録音レベル表示**
録音レベルが表示されます。

② **リバースモード表示**
リバースモードを表示します。

③ **●表示**
録音中に点灯します。

④ **Ⅱ表示**
一時停止中に点灯します。

⑤ **CD DUBB表示**
CDダビング中に点灯します。

⑥ **ドルビーNR B/C表示**
ドルビーNR BタイプまたはCタイプが働いているときに点灯します。

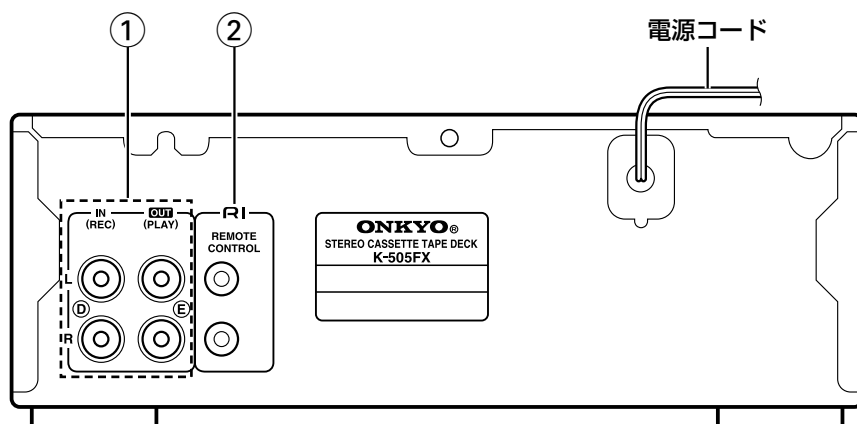
⑦ **カウンター表示**
カウンターの数値を表示します。

⑧ **フォワード/リバース表示**
再生方向を表示します。

⑨ **FADE表示**
フェードアウトCDダビングモードに設定されていると点灯します。

⑩ **ALBUM表示**
アルバムCDダビングモードに設定されていると点灯します。

本体の名前と働き

後面パネル

① IN(REC)/OUT(PLAY)端子
付属のオーディオ用ピンコードを使って、アンプなどのアナログ音声入出力端子と接続します。

② RI REMOTE CONTROL端子
RI端子のあるオンキヨー製アンプなどと接続し、連動させるための端子です。
RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

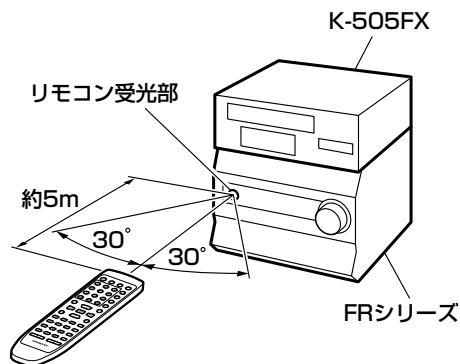
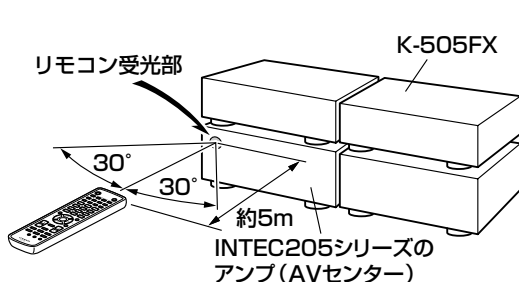
接続ついては、12ページをご覧ください。

リモコン

■ INTEC205シリーズのアンプやFRシリーズに付属のリモコンで本機を操作する

本機にリモコンは付属していませんが、INTEC205シリーズのアンプやFRシリーズに付属のリモコンを使って本機を操作することができます。アンプ部のリモコン受光部にリモコンを向けて操作してください。
● INTEC205シリーズやFRシリーズとRI接続してください。

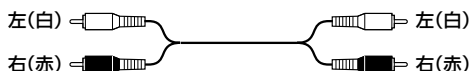
ご注意
RIケーブルの接続だけでは、システムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続しください。

リモコンの使いかた
リモコンをINTEC205シリーズのアンプまたはFRシリーズのリモコン受光部に向けて操作してください。

接続をする

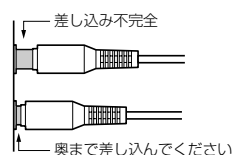
機器を接続する前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 赤いコネクターを右チャンネル（Rの表示）、白いコネクターを左チャンネル（Lの表示）に接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質が悪くなることがあります。

差し込み不完全

奥まで差し込んでください

システム機能について

INTEC205シリーズやFRシリーズの組み合わせでRIケーブル、オーディオ用ピンコードを接続すると、次のシステム機能を使うことができます。RIケーブルとは、本機に付属しているオンキヨーのシステム動作用ケーブルです。

システム接続のしかた

アンプやFRシリーズの取扱説明書をご覧ください。

オートパワーオン
本機の電源を入れたり、再生を始めると、アンプやFRシリーズの電源が自動的に入ります。

ダイレクトチェンジ
本機の◀/▶（プレイ）ボタンを押すと、アンプやFRシリーズの入力が自動的に「TAPE」に切り換わります。

リモコン操作
アンプやFRシリーズに付属のリモコンで本機を操作することができます。

詳しくはアンプやFRシリーズの取扱説明書をご覧ください。

タイマー操作
チューナーやFRシリーズでタイマー時間を設定し、タイマー操作ができます。

詳しくはチューナーまたはFRシリーズの取扱説明書をご覧ください。

CDダビング
CDプレーヤーから本機への録音がワンタッチで行える機能です。

詳しくは本取扱説明書16ページをご覧ください。

シンクロ録音
本機を録音待機状態にしておけばCDプレーヤーやMDレコーダーの再生操作のみで録音が自動的に始まります。

詳しくは本取扱説明書18ページをご覧ください。

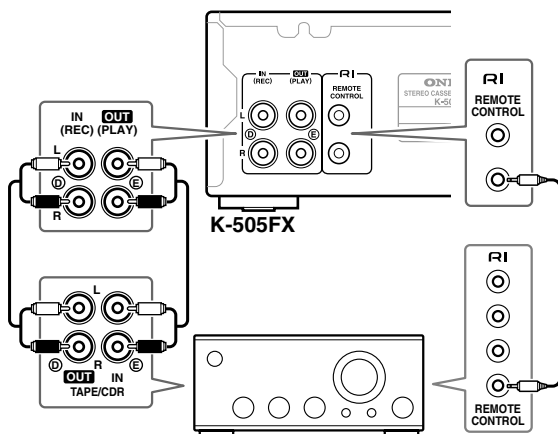
- 接続が正しくないと各機能は働きません。12ページを参照しながらオーディオ用ピンコード、RIケーブルを正しく接続してください。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 一部、旧INTEC205シリーズ製品との組み合わせで動作しない機能があります。新旧製品の連動動作の対応/非対応については、カスタマーセンターにお問い合わせください。

接続をする

アンプと接続する

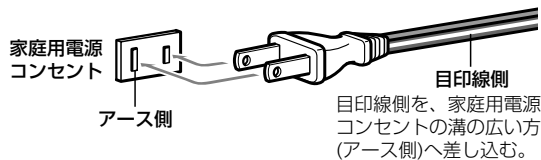
本機のANALOG OUT端子Ⓔとアンプのアナログ音声入力端子を接続します。
本機のANALOG IN端子Ⓓとアンプのアナログ音声出力端子を接続します。
RI端子付きのオンキヨー製品と組み合わせてシステム機能を使うときは、付属のRIケーブルで本機のRI端子とアンプのRI端子を接続してください。

例：オンキヨー製アンプ（A-905FX）との接続

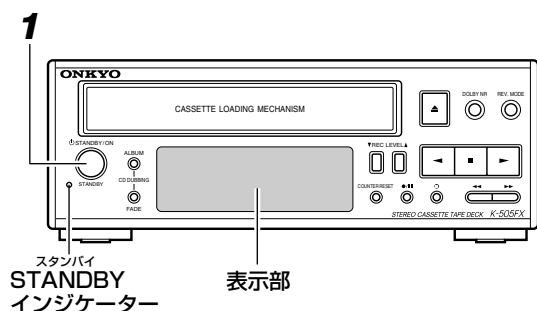
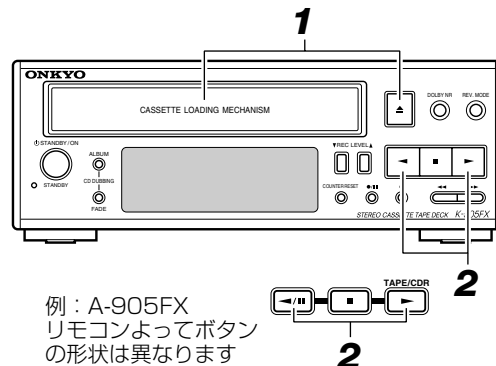
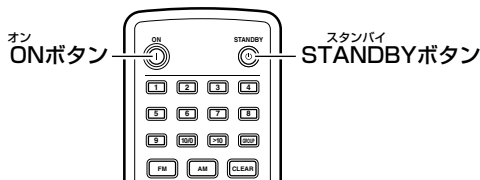
ご注意

- 2つのRI端子の働きは同じです。いずれかに接続してください。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。
オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

INTEC205シリーズとの接続は、A-905FXの取扱説明書をご覧ください。

電源コードを接続する

電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。

よりよい音で聞いていただくために
本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源コードの目印線側を家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の広さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

テープを聞く

電源を入れる

1 本体	**STANDBY/ONボタンを押す** STANDBYインジケーターが消え、表示部が点灯します。 **スタンバイ状態に戻すには** STANDBY/ONボタンをもう一度押します。

A-905FXに付属の
リモコン(RC-614S)

INTEC205シリーズシステム全体の電源を入れる

INTEC205シリーズのA-905FX(アンプ)やSA-907FX(AVセンター)と組み合わせる場合:

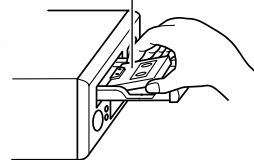
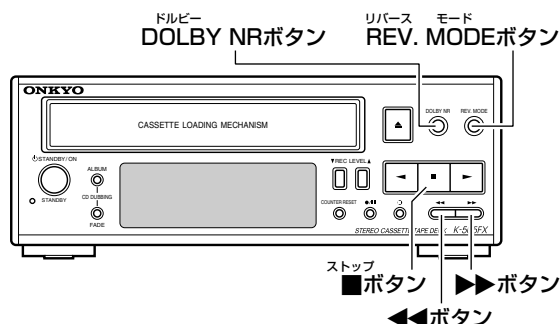
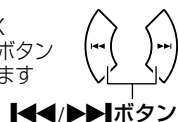
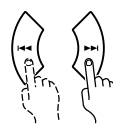
1 リモコン (RC-614S)	**アンプ(AVセンター)に付属のリモコンのONボタンを押す** アンプ(AVセンター)の電源が入ります。
2 リモコン (RC-614S)	**もう一度ONボタンを押す** RI接続したすべての機器の電源が入り、本機の電源も入ります。

システム全体をスタンバイ状態に戻すには

リモコンのSTANDBYボタンを押します。

テープを再生する

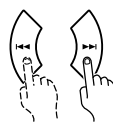
例:A-905FX
リモコンよってボタンの形状は異なります

1	**カセットを入れる** ▲ボタンを押してカセットトレイを開きます。 ● カセットはテープ面を奥側にして、再生する側(►)を上向きにのせます。 テープ面を奥側にして、再生する側を上向きにのせる。 ● ▲ボタンを押してカセットトレイを閉じます。トレイを軽く押して閉じることもできます。 ご注意 トレイを閉じるときに指をはさまれないようにご注意ください。
2 本体 リモコン	**再生を始める** 再生したい方向の◄/►ボタン(◄または►)を押します。 ● 走行方向のプレイ表示が点灯します。 **!ヒント** ● スタンバイ状態から◄/►ボタン(◄または►)を押すと、電源が入り再生を始めます。 ● RI端子付きオンキヨー製品とシステム接続している場合は、アンプ内蔵機器の電源も入ります。 **再生を止めるには** ■ボタンを押します。 **カセットを取り出すには** ▲ボタンを押します。

テープを聞く

早送り/巻き戻しをする

停止中に本体の◀◀/▶▶ボタンまたはリモコンの|◀◀/▶▶|ボタンを押す

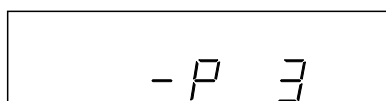
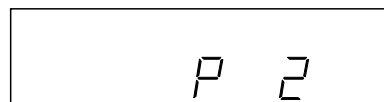
本体の▶▶ボタンまたはリモコンの▶▶|ボタンを押すと、右方向に早送りします。

本体の◀◀ボタンまたはリモコンの|◀◀ボタンを押すと、左方向に巻き戻しします。

- 途中で停止させたいときは、■（ストップ）ボタンを押してください。

曲の頭出しをする

再生中に本体の◀◀/▶▶ボタンまたはリモコンの|◀◀/▶▶|ボタンを押す

- 最大15曲まで頭出し選曲できます。
- 表示は曲間を検出するごとにカウントダウンします。

例：
再生中に2曲前の曲を選ぶときはボタンを3回押します。

再生中に2曲後ろの曲を選ぶときはボタンを2回押します。

ご注意

頭出し選曲は、曲と曲の間の無音部分（5秒以上）を検出して動作します。したがって、次のようなテープでは正常に動作しないことがあります。

- 曲間に5秒以上の無音部分がないテープ
- 会話などで音が途切れているテープ
- 曲間と間違えるほどの極端にレベルの低い部分のあるテープ（短い静かな部分のあとに大きな音がある場合など）
- フェードイン、フェードアウト録音したテープ

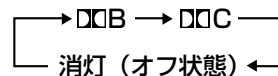
ドルビーNRのタイプを選ぶ

ドルビーNR（ノイズリダクション）システム

テープを再生すると、ヒスノイズ（サーという雑音）が出ます。ドルビーNRは、このノイズを低減する機能です。録音時や再生時に設定します。録音時と同じドルビーNRタイプで再生すると、より良い音になります。
本機は、ドルビーNRのBタイプとCタイプを搭載しています。

- ドルビーNR Bタイプは､一般用として広く定着しています。
- ドルビーNR Cタイプは、Bタイプに比べさらに大きな雑音低減効果があります。
- お買い上げ時の設定は、ドルビーNRシステムが「オフ」の状態です。

DOLBY（ドルビー） NRボタンを（くり返し）押す

ボタンを押すたびに以下の順でドルビーNRのタイプが切り換わります。

ご注意

ドルビーNRの設定はスタンバイ状態でも記憶されていますが、電源コードを抜いたときや停電時は、お買い上げ時の設定「オフ」に戻ります。

録音する

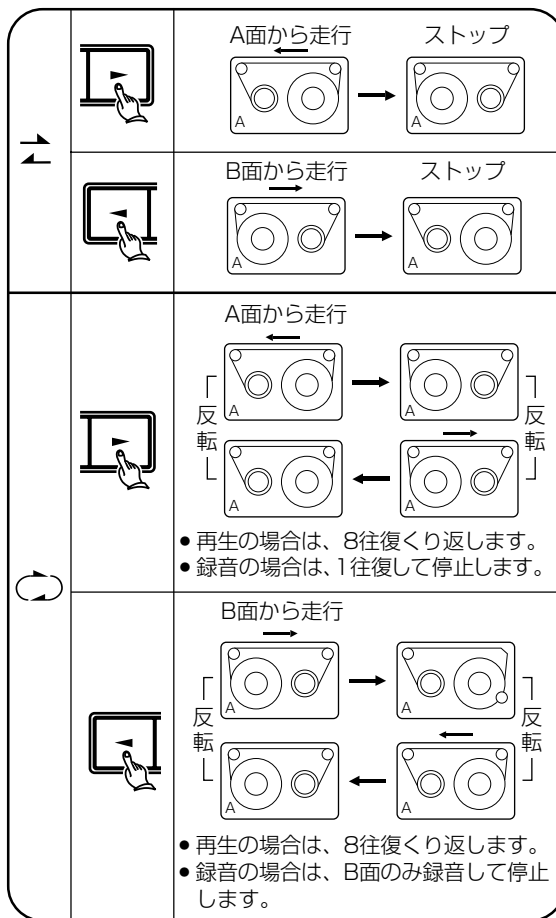
リバースモードを選ぶ

REV. MODE ボタンを（くり返し）押す

ボタンを押すたびに、リバースモードが下記のように切り換わります。

⇄ ： 片面を再生して停止します。

⬇⬆

⟲ ： 両面をくり返し8往復再生して停止します。（お買い上げ時の設定）

（カセットテープの上面をA面としています。）

ご注意

リバースモードの設定は、本機をスタンバイ状態にしても記憶されますが、電源コードを抜いたときや停電時は、お買い上げ時の設定「⟲」に戻ります。

> あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

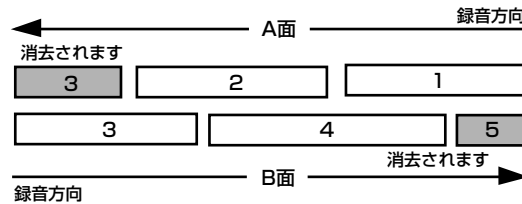
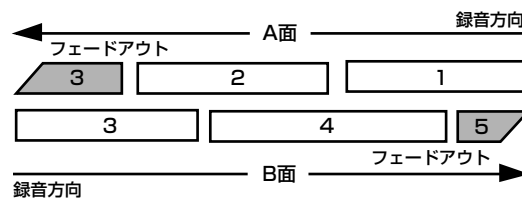
- 録音用テープは誤消去防止用ツメが折れていないものを使用してください。（☞7ページ）
- 録音前に、接続した機器の再生モードや設定を確認してください。

録音方法の種類

■オンキヨー製INTEC205シリーズやFRシリーズと組み合わせている場合

CDダビング

CD DUBBINGボタンを使ってCDから本機へワンタッチで録音します。録音開始時にテープの巻き戻し、録音中にA/B両面へのテープの編集を自動で行います。

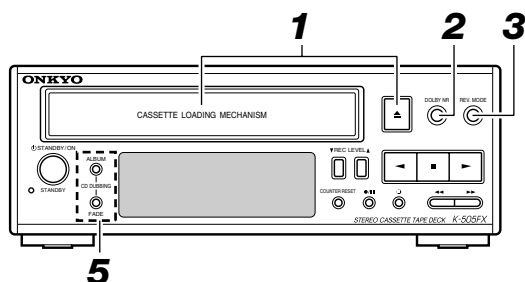
- **アルバムCDダビング（☞16ページ）**
  A面で最後まで録音できなかった曲を消去し、B面の1曲目として録音します。B面で最後まで録音できなかった曲も消去されます。

- **フェードアウトCDダビング（☞16ページ）**
  A面で最後まで録音できなかった曲を途中でフェードアウト（徐々に音量を小さく）し、再度B面の1曲目として録音します。B面で最後まで録音できなかった曲もフェードアウトされます。

- **連続でCDダビングをする（☞17ページ）**
  2枚以上のCDを連続してダビングするときに便利です。一旦、録音を止め、2枚目のCDダビングのときは巻き戻さずにCDダビングを開始します。
- **テープの途中からCDダビングをする（☞17ページ）**
  録音済みのテープに追加してCDダビングをするときに便利です。テープを巻き戻さずにCDダビングを開始します。

CDシンクロ/MDシンクロ録音（☞18ページ）

ライブ盤やクラッシックなどのCDやMDで、テープの片面に録音しきれないような長い曲を録音するのに便利です。

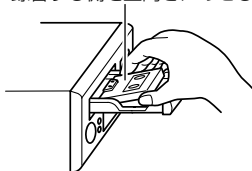
■オンキヨー製品以外と組み合わせている場合

手動で録音する（☞20ページ）

オンキヨー製INTEC205シリーズやFRシリーズ以外のCDやMDから録音する方法です。

K-505FX(13-15)(SN29344025)　15　05.3.9, 3:04 PM
ブラック

CDダビング(アルバム/フェードアウト)

1 カセットを入れる

▲(オープン/クローズ)ボタンを押してカセットトレイを開きます。

テープ面を奥側にして、A面または録音する側を上向きにのせる。

● ▲ボタンを押してカセットトレイを閉じます。トレイを軽く押して閉じることもできます。

ご注意

トレイを閉じるときに指をはさまれないようにご注意ください。

2 ドルビーNRのタイプを選ぶ

DOLBY(ドルビー) NRボタンを(くり返し)押して、DD B、DD C または「オフ」を選びます。

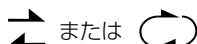
DD B、DD C または 消灯(オフ)

!ヒント

録音時と同じドルビーNRのタイプで再生するとより良い音になります。録音時のドルビーNRのタイプをメモしておくと便利です。

3 リバースモードを選ぶ

REV.(リバース) MODE(モード)ボタンを(くり返し)押して、「⇄」または「⊂⊃」を選びます。

⇄ または

● 詳しくは「リバースモードを選ぶ」(☞15ページ)をご覧ください。

4 録音したいCDを入れる

!ヒント

オンキヨー製INTEC205シリーズやFRシリーズ側で録音したい曲をメモリーしておくと、メモリー曲だけのCDダビングができます。(詳しくは、INTEC205シリーズやFRシリーズの取扱説明書を参照してください。)

5 CDダビングを始める

アルバムCDダビングを行うときは、ALBUM(アルバム)ボタンを押します。

フェードアウトCDダビングを行うときは、FADE(フェード)ボタンを押します。

● テープは片側方向へ巻き戻しを始めます。同時にCDプレーヤーはディスク全体を高速で再生して、再生レベルの最も高いところを探します。この両方の動作が完了したのち、本機はリーダーテープ部(テープの両端にある透明な録音できない部分)を避けるため、A/B両面の初めの10秒間は無音部分を作ります。本機やCDプレーヤーがこの動作を終えるまで、どのボタンもさわらないでください。

CDダビングを止めるには

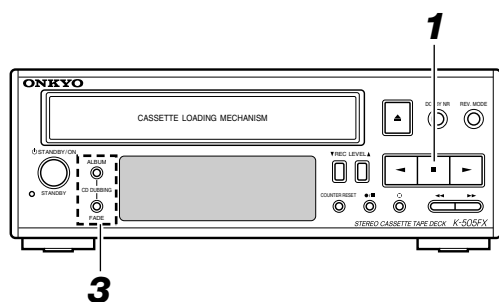
本機またはCDプレーヤーの■(ストップ)ボタンを押します。

!ヒント

録音レベルは自動的に設定されますが、REC(レック) LEVEL(レベル)▲/▼ボタンでさらにお好みの録音レベルに調節できます。CDダビングを開始したときに、REC LEVEL▲/▼ボタンを押すと自動設定されたところが 0 で表示され、−6から 6 の間で調整できます。

ご注意

- CDやテープが正しくセットされていないとき、または本機とCDプレーヤーが停止状態でないときは、CDダビング表示が点滅し、編集はスタートしません。
- 1曲の長さがテープの片面に収まらない場合、その曲は消去されず、A面からB面にそのまま続けて録音されます。
- フェードアウトはリーダーテープ部分によって、完全に録音できない場合があります。
- テープ終端の余りが約30秒以下の場合、録音できません。
- ドルビーNR、リバースモード、録音レベルの設定は、本機をスタンバイ状態にしても記憶されますが、電源コードを抜いたときや停電時は、お買い上げ時の設定に戻ります。ドルビーNRは「オフ」、リバースモードは「⊂⊃」、録音レベルは「0」です。

連続でCDダビングをする

ご注意

テープに続けて録音できる残量があることを確認して操作してください。

1

CDダビングを止める

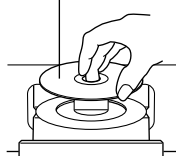
本機またはオンキヨー製INTEC205シリーズやFRシリーズの編集動作を止めます。

ご注意

停止後は本機の操作をしないでください。本機側の操作をすると、CDダビング状態が解除されます。

2

CDを入れ換える

レーベル面を上に

3

CDダビングを再開する

ALBUM(アルバム)ボタンまたはFADE(フェード)ボタンを押します。
CDプレーヤーは入れ替えたディスクのピークレベルを検出します。この場合テープは巻き戻ししません。
その後、本機はダビングを再開します。

テープの途中からCDダビングをする

1

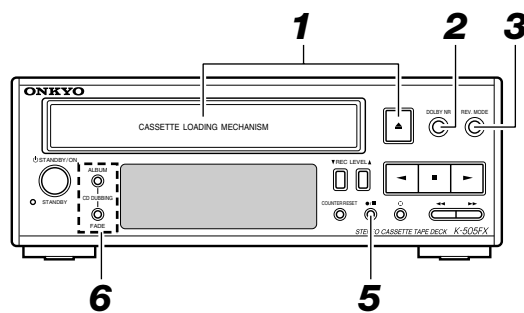
カセットを入れる

2

DOLBY NR

ドルビーNRのタイプを選ぶ

3

REV. MODE

リバースモードを選ぶ

4

録音したいCDを入れる

5

本機を録音待機状態にする

●/II(レック/ポーズ)ボタンを押します。

！ヒント

録音面を切り換えるには

●/IIボタンを押しながら、◀/▶(プレイ)ボタン（◀または▶）を押します。

6

CDダビングを始める

ALBUMボタンまたはFADEボタンを押します。
テープは巻き戻しをせず、約5秒間の無音部分を作り、録音を始めます。

CDシンクロ/MDシンクロ録音

本機をINTEC205シリーズやFRシリーズとRIケーブルで接続した場合、録音待機状態にしてからCDの再生を始めるだけで自動的に本機の録音も始まります。
ライブ盤やクラッシックなどのCDやMDでテープの片面に録音しきれないような長い曲などはシンクロ録音してください。

ご注意

カセットのリーダーテープ部分（録音できない部分）は、巻きとっておいてください。

1 カセットを入れる

オープン／クローズ
▲ボタンを押してカセットトレイを開きます。

テープ面を奥側にして、A面または録音する側を上向きにのせる。

- ▲ボタンを押してカセットトレイを閉じます。トレイを軽く押して閉じることもできます。

ご注意

トレイを閉じるときに指をはさまれないようにご注意ください。

2 ドルビーNRのタイプを選ぶ

DOLBY NR

ドルビー
DOLBY NRボタンをくり返し押して、DDB、DDCまたは「オフ」を選びます。

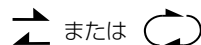
DDB、DDC または 消灯（オフ）

！ヒント

録音時と同じドルビーNRのタイプで再生するとより良い音になります。録音時のドルビーNRのタイプをメモしておくと便利です。

3 リバースモードを選ぶ

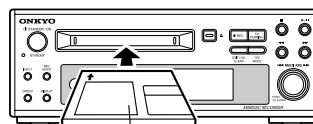
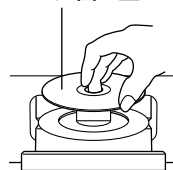
REV. MODE

リバース　モード
REV. MODEボタンを（くり返し）押して、「」または「⟲」を選びます。

- 詳しくは「リバースモードを選ぶ」（☞15ページ）をご覧ください。

4 カウンターをリセットする

COUNTER RESET

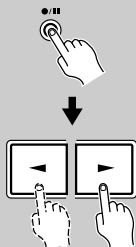
5 録音したいCDまたはMDを入れる

レーベル面を上に

ラベル面を上に
矢印の方向に差し込む

6 CDやMDの再生を始める

CDプレーヤーまたはMDレコーダー

CDプレーヤーまたはMDレコーダー側で録音したい曲をメモリーしておくと、メモリー曲だけのシンクロ録音ができます。（詳しくはINTEC205シリーズのCDプレーヤーまたはMDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。）

7

録音待機状態にする

●/❚❚（レック/ポーズ）ボタンを押しながら、◀/▶（プレイ）ボタン（◀または▶）を押して、テープの走行方向を決めます。

ご注意

◀方向から録音する場合、リバースモードが"⊂⊃"となっていても片面のみの録音となります。

8

▼REC LEVEL▲

録音レベルを調整する

録音レベルは録音するソースや音楽により異なります。本機では一番大きな音のときにピークレベル表示の末端が、メタルテープでは下から2つ目の赤が、ハイやノーマルテープでは下から1つ目の赤が時々点灯するようにREC LEVEL（レック レベル）▲/▼ボタンで調整してください。「▲」を押すと録音レベルが高くなり、「▼」を押すと録音レベルが低くなります。

！ヒント

▲ボタンまたは▼ボタンを押すとカウンター部分に内蔵ボリュームのレベルが2ケタの数字で表示されますので、録音時の目安にしてください。また、▲ボタンと▼ボタンを同時に2秒以上押すことにより、録音レベルを素早くさげる（にする）ことができます。一度録音したテープを消去するときに便利です。

9

CDプレーヤーまたはMDレコーダー

再度CDプレーヤーまたはMDプレーヤーの再生を始める

INTEC205シリーズやFRシリーズのCDプレーヤーまたはMDレコーダー側で■（ストップ）ボタンを押し、もう一度最初からCDやMDの再生を始めてください。録音が始まります。

CDシンクロ/MDシンクロ録音を止めるには

本機またはCDプレーヤー/MDレコーダーの■（ストップ）ボタンを押します。

ご注意

ドルビーNR、リバースモード、録音レベルの設定は、本機をスタンバイ状態にしても記憶されますが、電源コードを抜いたときや停電時は、お買い上げ時の設定に戻ります。
お買い上げ時の設定は、ドルビーNR「オフ」、リバースモード「⊂⊃」、録音レベルは「20」です。

無音部を作る

録音中または録音待機中に（オートスペース）ボタンを押す

▶（プレイ）（または◀）表示が点滅しながら約5秒間の無音部分を作った後、録音待機状態になります。

- 5秒以上の無音部分を作りたいときは、（オートスペース）ボタンを押し続けてください。
- 5秒以下の無音部分を作りたいときは、▶（または◀）表示が点滅中に●/❚❚（レック/ポーズ）ボタンを押してください。

録音する

手動で録音する

ご注意

カセットのリーダーテープ部分（録音できない部分）は、巻きとっておいてください。

1 カセットを入れる

▲（オープン/クローズ）ボタンを押してカセットトレイを開きます。

テープ面を奥側にして、A面または録音する側を上向きにのせる。

- ▲ボタンを押してカセットトレイを閉じます。トレイを軽く押して閉じることもできます。

ご注意

トレイを閉じるときに指をはさまれないようにご注意ください。

2 ドルビーNRのタイプを選ぶ

DOLBY（ドルビー） NRボタンをくり返し押して、DD B 、DD C または「オフ」を選びます。

DD B、DD C または **消灯（オフ）**

！ヒント

録音時と同じドルビーNRのタイプで再生するとより良い音になります。録音時のドルビーNRのタイプをメモしておくと便利です。

3 リバースモードを選ぶ

REV.（リバース） MODE（モード）ボタンを（くり返し）押して、「⇄」または「⟲」を選びます。

⇄ または ⟲

- 詳しくは「リバースモードを選ぶ」（☞15ページ）をご覧ください。

4 カウンターをリセットする

COUNTER RESET

0000

5 録音ソースを再生する

6 録音待機状態にする

本機の●/‖（レック/ポーズ）ボタンを押して、録音待機状態にします。

7 録音レベルを調整する

▼REC LEVEL▲

録音レベルは録音するソースや音楽により異なります。本機では一番大きな音のときにピークレベル表示の末端が、メタルテープでは下から2つ目の赤が、ハイやノーマルテープでは下から1つ目の赤が時々点灯するように

L R

REC（レック） LEVEL（レベル）▲/▼ボタンで調整してください。「▲」を押すと録音レベルが高くなり、「▼」を押すと録音レベルが低くなります。

！ヒント

▲ボタンまたは▼ボタンを押すとカウンター部分に内蔵ボリュームのレベルが2ケタの数字で表示されますので、録音時の目安にしてください。また、▲ボタンと▼ボタンを同時に2秒以上押すことにより、録音レベルを素早くさげる（00にする）ことができます。一度録音したテープを消去するときに便利です。

8

録音を始める

◀/▶(プレイ)ボタン（◀または▶）を押して録音を始めます。

ご注意

リバース方向から録音する場合、リバースモードが「⊂⊃」となっていても片面のみの録音となります。

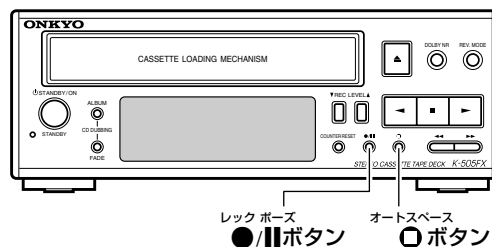
録音を止めるには

録音ソースの再生を止めて、本機の■(ストップ)ボタンを押します。

ご注意

ドルビーNR、リバースモード、録音レベルの設定は、本機をスタンバイ状態にしても記憶されますが、電源コードを抜いたときはお買い上げ時の設定に戻ります。
お買い上げ時の設定は、ドルビーNR「オフ」、リバースモード「⊂⊃」、録音レベルは「20」です。

録音を一時停止する

録音中に●/❚❚(レック/ポーズ)ボタンを押す

録音中に●/❚❚(レック/ポーズ)ボタンを押すと、録音が一時停止します。

- 録音を再開するときは、◀/▶(プレイ)ボタン（◀または▶）を押してください。

■オートスペースについて

録音中または録音待機中に(オートスペース)ボタンを押すと、▶(プレイ)（または◀）表示が点滅しながら約5秒間の無音部分を作ったあと録音待機状態になります。5秒以上の無音部分を作りたいときは押し続けてください。5秒以下にしたいときは、▶（または◀）表示が点滅中に●/❚❚ボタンを押してください。

困ったときは

まず下記の内容を確認してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

電　源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。〔12ページ〕
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

音　声

音声が出力されない/小さい

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。〔11ページ〕
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。〔12ページ〕
- ケーブルが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

ノイズが出る/音が歪む/音が飛ぶ

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性があります。接続コードの位置を動かしてみてください。
- デッキ内部にゴミが付着していると音がかすれたり、飛ぶことがあります。ヘッドクリーニングカセットで清掃してください。〔7ページ〕
- テープが伸びていると左右の音のバランスがくずれることがあります。テープを交換してください。〔7ページ〕
- テープの読み込み部が磁化されていると、「ザー」という雑音が多くなります。消磁してください。〔7ページ〕
- テープが段つきになっていて堅く巻かれていると音が「ワウワウ」とうなったり、音飛びが起こります。早送りをして巻き直してください。
- 録音したテープ自体のひずみでないか、別のテープと交換してみてください。

高音が強調されすぎる/高音が出ない

- 録音したときのドルビーNRと再生するときのドルビーNRモードを合わせてください。〔14ページ〕
- ヘッドに汚れがある場合は、高音域が出にくくなることがあります。ヘッドクリーニングカセットで清掃してください。〔7ページ〕

録　音

録音ができない

- カセットテープの誤消去防止用ツメが折られているときは、セロハンテープなどを貼ってください。〔7ページ〕
- 録音レベルが「00」になっているときは、録音できません。正しい録音レベルに調整してください。〔19、20ページ〕

その他

選曲ができない

- 曲と曲の間の無音部が短いと頭出しができません。〔14ページ〕
- 無音部に雑音が多いと、頭出しがうまくできないことがあります。〔14ページ〕

オンキヨー製外部機器とのシステム機能が働かない

- RIケーブルとオーディオ用ピンコードの両方が正しく接続されているか確認してください。（RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。）〔12ページ〕

A-905FX（アンプ）と組み合わせる場合

音が出ない/システム機能が働かない/リモコンが働かない

- A-905FXのMAIN IN（メイン イン）機能が働いていないか確認してください。詳しくはA-905FXの取扱説明書をご覧ください。

結露について

本機を冷えた所から暖かい部屋に持ち込んだり、寒い部屋をストーブなどで急に暖めた場合、本機の内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。そのままでは正常に働かないばかりではなく、テープがいたんだり、からみついたりして正常なテープ走行ができなくなることがあります。結露しているおそれがある場合は、電源を入れて約1時間放置してからご使用ください。また、本機をご使用にならないときは、カセットテープを取り出しておくことをおすすめします。

- **本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約10秒以上放置してから電源プラグを接続してください。**

- **製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。**

K-505FX(22-E<24>)(SN29344025)　22　05.3.9, 3:15 PM
ブラック

主な仕様

型式： オートリバースシングルデッキ
トラック型式：4トラック 2チャンネルステレオ
録音方法：ACバイアス
消去方法：AC消去
テープ速度：4.76cm/sec
ワウ・フラッター：0.1%（WRMS）
周波数特性：30〜13000Hz±3dB　ノーマルポジション
30〜14000Hz±3dB　ハイポジション
30〜15000Hz±3dB　メタルポジション
SN比： 54dB
（3% THD レベル、メタル、ドルビーNR OUT）
Btype INで10dB（5kHz）向上
Ctype INで20dB（5kHz）向上

音声入力：L/R 1系統
入力感度：80mV
入力インピーダンス：50kΩ
音声出力：L/R 1系統
基準出力：500mV
負荷インピーダンス：50kΩ以上
モーター：DCサーボモーター1個
ヘッド：ハードパーマロイヘッド1個（録音、再生）
フェライトヘッド1個（消去）
電源：AC100V、50/60Hz
消費電力：11W（電気用品安全法技術基準）
待機時電力：0.5W
外形寸法（幅×高さ×奥行）：205×76×274mm
質量：2.6kg
許容動作温度/湿度：5℃〜35℃/5%〜85%

仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書
この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは
意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お 名 前
- ▶ お 電 話 番 号
- ▶ ご 住 所
- ▶ 製 品 名　K-505FX
- ▶ で き る だ け 詳 し い 故 障 状 況

■オンキヨー修理窓口について
詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は
万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について
本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

K-505FX(22-E<24>)(SN29344025)　23　05.3.9, 3:05 PM
ブラック